

読んであげたい5歳からのえほん



袋井市立図書館

も く じ

おはなしのえほん・・・・・・・・ 2

かがくのえほん・・・・・・・・ 7

むかしばなしのえほん・・・・ 9

ことばのえほん・・・・・・・・ 11

じ
字のないえほん・・・・・・・・ 12

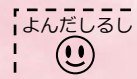
ちょっとながいおはなし・・ 13



この冊子の使い方

- 種類別、書名順に紹介しています
- 対象年齢はあくまでも目安です
- 「シリーズあり」と表記されているものは、シリーズの本があります

ほんをよんだら「よんだしるし」の
ところにいろをぬってね。

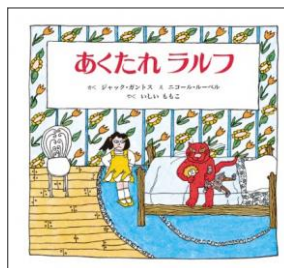


おはなしのえほん

物語の絵本です。
子どもたちは、絵本の中に入り込んで、主人公と一緒に物語の世界を楽しみます。



『あくたれラルフ』

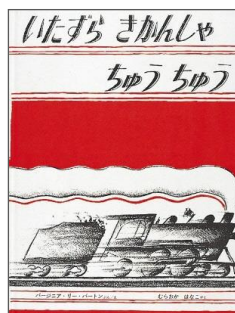


ジャック・ガントス／さく
ニコール・ルーベル／え
いいいもこ／やく 童話館出版



ラルフはセイラのねこで、たいへんなあくたれ。それでもセイラはラルフが大好き。ある日、ラルフは家族で見物したサーカスを台無しにしてしまいます。思いのままに行動できるラルフと、自分のことを好きでいてくれる人の存在に、子どもたちは勇気づけられます。

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』

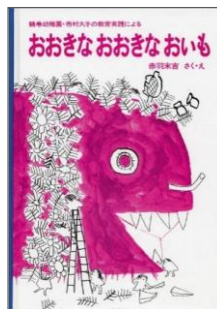


バージニア・リー・
バートン／ぶんえ
むらおかはなこ
／やく
福音館書店



ちゅうちゅうは、黒くて小さい機関車。ある日機関士たちが見ていない間に、ちゅうちゅうは客車を置いて一人で自由に走り出します。子どもたちは、ちゅうちゅうの走りっぷりがよくわかる絵を楽しみ、機関士たちが助けに来てくれたところで安心します。

『おおきなおおきなおいも』

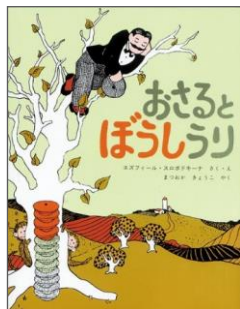


赤羽末吉／さく・え 福音館書店



雨でいもほり遠足が延期になったので、園の子どもたちは、先生に大きな紙を何枚ももらって、特大のさつまいもの絵を描きます。そのおいもを、どうやって運ぶか、どうやって食べるか、子どもたちの想像力の広がりが愉快です。

『おさとぼうしうり』



エズフィール・
スロボドキーナ
／さく・え
まつおかきょうこ
／やく
福音館書店



ぼうしうりは頭の上にぼうしをたくさん重ねて売り歩いていました。ある日、昼寝から起きると大事なぼうしがありません。木の上にはぼうしをかぶったたくさんのさる。ぼうしうりはさるからぼうしを取り戻せるのでしょうか。ぼうしうりとさるのやり取りが痛快な絵本です。

『おちやのじかんにきたとら』



ジュデイス・カー
／作
晴海耕平／訳
童話館出版



ソフィーとお母さんがお茶にしようとしたちょうどその時、はらぺこのトラがやって来ました。トラは、サンドイッチを全部、戸棚の缶詰も、水道の水も全部たいらげて帰っていきました。そのあとで帰ってきたお父さんの粋な計らいが楽しい本です。

『かじってみたいな、お月さま』



F・アッシュ／えとぶん
山口文生／やく 評論社



くまくんは、お月さまをかじってみたいなと思い、ロケットを作って月へ出発しました。くまくんが目を覚ますと、そこは一面の銀世界。月に到着したと思ったくまくんがかじったものは何でしょう。くまくんの純粋な想いが伝わる絵本です。※シリーズあり

『くまのビーディーくん』



ドン＝フリーマン／さく
まつおかきょうこ／やく 偕成社



ビーディー君は、セイヤー君が持っているゼンマイ仕掛けのくまのおもちゃです。ある日、ビーディー君は家を出して、ほらあなで暮らしはじめます。すると、突然動けなくなって…。白黒の版画で描いた絵は素朴で、おもちゃと男の子の友情に心あたたまります。

『くんちゃんのだいのりょこう』

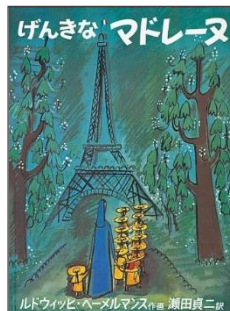


ドロシー・マリノ
／文 絵
石井桃子／訳
岩波書店



子ぐまのくんちゃんは、渡り鳥のまねをして南の国へ出発します。しかし、双眼鏡やつりざおなど何度も忘れ物を取りに帰るうちに、眠くなってしまいます。くんちゃんの無邪気な行動をやさしく見守る両親も素敵で、絵もあたたかみを感じられます。※シリーズあり

『げんきなマドレーヌ』

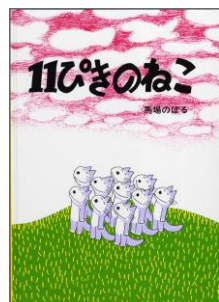


ルドウィッヒ・
ベームルマンズ
／作・画
瀬田貞二／訳
福音館書店



パリの寄宿舎に、ねずみもトラもへっちゃらで、いつも元気なマドレーヌがいました。そんなマドレーヌが盲腸で入院しました。お見舞いに行った寄宿舎の女の子たちに、その夜どんなことが起きたでしょうか。パリの風景の挿絵もおしゃれです。※シリーズあり

『11ぴきのねこ』



馬場のぼる／著
こぐま社



11ぴきのねこは、いつもおなかがぺこぺこ。湖に大きな魚がいることを聞いたねこたちは、何度も挑戦して、やっと大きな魚を捕まえました。食べない約束をしたのに、闇夜が明けた時のねこ達のおなかは…。ユーモアたっぷりの絵とお話に大満足です。※シリーズあり

『そらいろのたね』



なかがわりえこ／さく
おおむらゆりこ／え 福音館書店



ゆうじは、自分の模型飛行機ときつねの空色の種を取りかえました。ゆうじが世話した空色の種はぐんぐん成長し、大きな家になりました。そこへきつねが来て、「返して」と言います。子どもたちは、「次はどうなる？」とはらはらしながら楽しめます。

『ちいさいおうち』



ばーじにあ・リー・ばーとん／ぶんとえ
いしいももこ／やく 岩波書店



むかしむかし、田舎の静かなところにちいさいおうちがありました。月日がたち、ちいさいおうちのまわりには、大きなビルが立ち並び、おひさまもお月さまもみえなくなっていました…。美しい文章と細部まで描かれた絵を堪能できます。

『はじめてのおつかい』



筒井頼子／さく 林明子／え
福音館書店



5歳のみいちゃんは、生まれてはじめておつかいを頼まりました。でも、転んでお金を落としてしまったり、緊張して大きな声が出せなかったり…。生き生きとした絵で描かれ、みいちゃんの心の動きに子どもたちも自分の体験と重ね合わせることでしょう。

『はなのすきなうし』

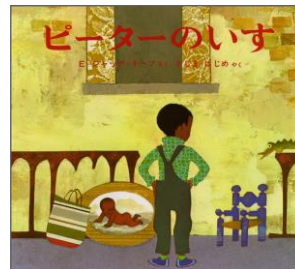


マンロー・リーフ
／おはなし
ロバート・
ローソン／え
光吉夏弥／やく
岩波書店



スペインの牧場でのんびり暮らすフェルジナンドは花が大好き。しかし、ある日牛飼いの男たちに勇敢な牛と勘違いされ、大闘牛場に連れて行かれてしまいます。フェルジナンドは闘うことができるのでしょうか。いきいきと描かれたモノクロの絵もお話に合っています。

『ピーターのいす』

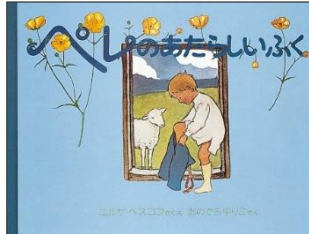


E=ジャック=キーツ／さく
きじまはじめ／やく 偕成社



ピーターに妹が生まれ、自分が小さい頃に使ったベッドやイスが妹の物に…。さびしくなったピーターは犬のウィリーと一緒に家出をします。弟や妹が生まれたときの微妙な気持ちに子どもたちは共感しつつ、大きくなることの喜びを感じます。※シリーズあり

『ペレのあたらしいふく』



エルサ・ベスコフ／さく・え
おのでらゆりこ／やく
福音館書店



ペレは自分の子羊の毛を刈りとって、周りの人たちの力を借り、服を手に入れます。労働に見合った課題を、黙々とこなすペレの姿に、子どもたちはあこがれます。完成したときの周りの人たちの表情や、服ができるまでの工程も楽しめます。

『ママ、ママ、おなかがいたいよ』



レミイ・シャーリップ／作・絵
バートン・サブリー／作
坪井郁美／訳 福音館書店



帽子を探しているお母さんに、ぼうやが「おなかが痛いよ。お医者さんよんで」と叫びます。パンパンにふくらんだぼうやのおなかの中から出てきたものは、クツや帽子、鳥かごに自転車…。奇想天外なお話が、シンプルな影絵で描かれています。

『ラチとらいおん』



マレーク・ベロニカ／ぶん、え
とくながやすもと／やく
福音館書店



ラチは世界で一番弱虫な男の子。ある朝突然現れた小さな赤いらいおんと、相撲をとったり、体操をしたりしているうちに少しずつ強くなっていきます。ある日、ラチは困っている友達を見かけて…。自分を見守り励ましてくれるらいおんに勇気づけられます。

『ロージーのおさんぽ』



パット＝ハッチンス／さく
わたなべしげお／やく 偕成社



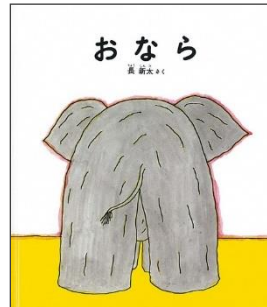
めんどりのロージーがお散歩におでかけ。その後ろを、ロージーを捕まえようときつねがついてきますが、ロージーの知らないところで、きつねは何度も痛い目に合います。文字にないお話を子どもたちは絵から読み取って楽しめます。

かがくの えほん

身近な物事を子どもたちにわかりやすく、また興味を持つよう描いています。
読み終わったら、実際に楽しめる絵本もあります。



『おなら』

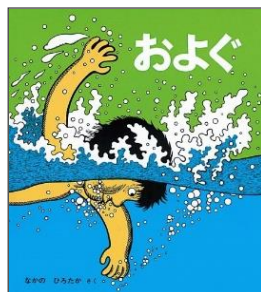


長新太／さく 福音館書店



「おならってどうして出るの？」この本は、そんな疑問に答えてくれる本です。わかりやすく絵も愉快です。おならが出た後で、お子さんと顔を見あわせて笑ってしまうかもしれません。見返しのおならの音の一覧もおもしろい。

『およぐ』



なかのひろたか／さく
福音館書店



いきなり泳ぎ方を伝えるのではなく、体が水に浮くようにできていることや、水に顔をつける、潜る、手足をバタバタさせて進むなど、順を追って教えてくれます。泳ぐとはどういうことか、わかりやすく、やってみようという気にさせてくれます。

『かぶとむしはどこ？』



松岡達英／さく 福音館書店



春、かぶとむしは腐葉土の中。1か月ほどかけてさなぎから成虫になり、夏の夜、いよいよ地上に出ていきます。かぶとむしの食事やくわがたとの戦いなどの生態が、わかりやすい絵と文章で描かれています。

『かみひこうき』



小林実／ぶん 林明子／え
福音館書店



とがったひこうきやつばさの広いひこうきは、どんな飛び方をするのでしょうか。重ねて飛ばしてみたら？高いところから飛ばしてみたら？いろいろなかたちのかみひこうきを折って、どんな飛び方をするのか確かめてみたくなる絵本です。

『ふゆめがっしょうだん』



富成忠夫、茂木透／写真
長新太／文 福音館書店



冬の木の芽を拡大した写真絵本です。よく見るとウサギやコアラの顔、帽子をかぶったこどもの顔などいろいろな顔に見えてきます。リズムカルな詩と表情豊かな春を待つ木の芽が楽しめます。冬の木の芽をじっくり観察したくなるでしょう。

『ぼく、だんごむし』

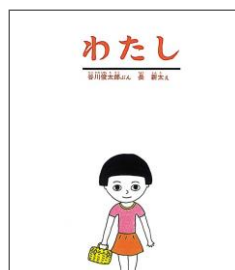


得田之久／ぶん たかはしきよし／え
福音館書店



子どもたちに人気のだんごむしの生態が、シンプルな切り絵でわかりやすく描かれています。「だんごむしはエビの仲間」「コンクリートも食べる」など大人でも知らないことが書かれています。読みおわたたら、庭に出て、だんごむしを探したくなるでしょう。

『わたし』



谷川俊太郎／ぶん
長新太／え 福音館書店



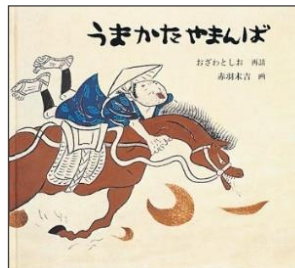
「わたし」はお母さんからみると「むすめ」。おばあちゃんからみると「まご」。犬からみると「人間」。私はひとりしかいないのに、いろいろな呼び名があることがわかる哲学的な絵本です。平易な文章と親しみやすい絵で、わかりやすく書かれています。

むかし ばなしの えほん

絵本がなかった時代から、長い間語り継がれてきた昔話には、子どもの心を深くとらえるものが数多くあります。



『うまかたやまんば』 (日本の昔話)

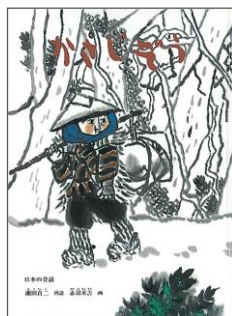


おざわとしお／再話
赤羽末吉／画 福音館書店



うまかたは山道でやまんばに会い、積み荷の魚すべてと馬を食われてしまいました。自分も食われそうになって一軒の家に隠れましたが、その家はやまんばの家でした。子どもたちは、はらはらどきどきしながらお話を楽しめます。

『かさじぞう』 (日本の昔話)



瀬田貞二／再話
赤羽末吉／画
福音館書店



貧乏なじいさんは、大晦日に笠を売りに行きますが一つも売れません。仕方なく帰る途中、吹雪の中のお地蔵さんたちに出会い、売り物の笠をかぶせてあげます。雪景色の絵も美しく、家で待っているばあさんの心の広さと幸せな結末に、子どもたちはほっとします。

『ガラスめだまときんのつののヤギ』 (ペラルーシ民話)

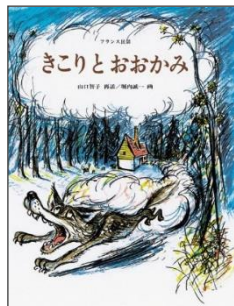


田中かな子／訳
スズキコージ／画 福音館書店



ある日、おばあさんが大切に育てた麦を見に畑へ行くと、ヤギが麦を食べ散らかしていました。クマやオオカミが畑からヤギを追いつつ追いかけていきます。ヤギを畑から追い出したのは…。リズムよい繰り返しの迫力のある絵が子どもたちをくぎづけにします。

『きこりとおおかみ』
(フランス民話)



山口智子
／再話
堀内誠一／画
福音館書店



きこりとおかみさんがスープを作っていると、おなかをすかせたおかみが入ってきました。機転を利かせて追い払いますが、一年後おかみは仲間を連れて再び現れます。きこりのつつまじやかで幸せな生活と、おかみのダイナミックな場面に目が離せません。

『だいくとおにろく』
(日本の昔話)



松居直／再話 赤羽末吉／画
福音館書店



腕のいい大工が、流れの速い川に橋をかけるように頼まりました。悩んでいると鬼が現れ、目玉と交換に橋をかけてやると言われます。橋ができあがったものの、目玉を渡したくない大工は…。白黒とカラーで交互に描かれた水墨画風の絵が迫力満点。

『パンのかけらとちいさなあくま』
(リトアニア民話)



内田莉紗子／再話
堀内誠一／画
福音館書店



貧乏なきこりのパンを盗んだ小さな悪魔は、大きな悪魔たちにこっぴどくしかられます。お詫びに沼を麦畑にかえましたが、やっと実った麦を意地悪な地主に全部取り上げられてしまいます。地主の行いを小さな悪魔がとんちで仕返しするところが痛快です。

『ふしぎなたいこ』
(日本の昔話)



石井桃子／ぶん
清水崑／え
岩波書店



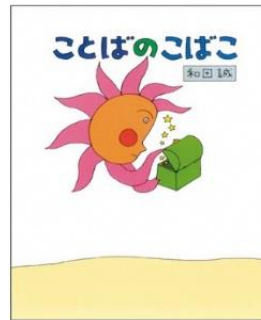
ふしぎなたいこを使って鼻を高くしたり低くしたりして人を喜ばせていた“げんごろうさん”。ある日どのくらい鼻がのびるかためしてみたくまりました。だんだんだんだんこたいこをたたくとげんごろうさんの鼻はぐんぐん伸びていき…。他に2話収録。

ことばのえほん

わらべうた、ことばあそび、なぞなぞのえほんです。
お子さんと一緒に声に出して楽しんでください。



『ことばのこぼこ』

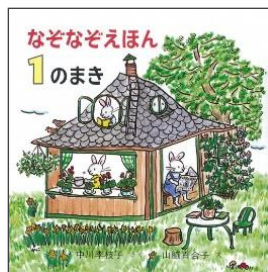


和田誠／さく・え 瑞雲舎



とまと、しんぶんしなど上から読んでも下から読んでも同じ言葉や、しりとり、かぞえうたなど18種類の言葉遊びが詰まった本です。絵もユーモラスで親しみやすく、それぞれの言葉を補ってくれます。日本語って面白い！と思える絵本です。

『なぞなぞえほん 1のまき』



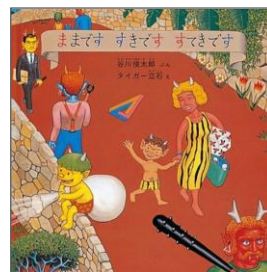
中川李枝子／さく 山脇百合子／え
福音館書店



『ひらくとおはなしがはじまって、閉じるとおしまい』(答え・本)などの日常見聞きする事がらが、なぞなぞになった小さな絵本。見開きで描かれたヒントの絵も暖かみがあります。

※2のまき、3のまきあり

『まますすきですすてきです』



谷川俊太郎／ぶん タイガー立石／え
福音館書店



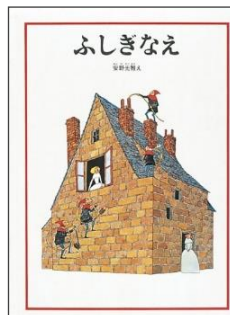
「たぬき、きつね、ねこ…」とはじまって最後のほうは少し奇妙な、しりとりあそびの絵本です。すべての言葉が絵で描かれ、その絵を探すのがまた楽しい。

じ 字のない えほん

文字がなく、絵だけで描かれたえほんです。
自由にお話ししながら楽しんでください。



『ふしぎなえ』

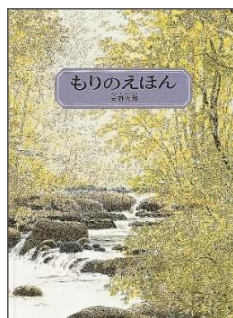


安野光雅／え 福音館書店



一見すると普通の絵ですが、よく見るとおかしな絵ばかり。家の壁を階段のように上ったり、階段を上がっても上がっても下に行ってしまうたり。不思議な世界を楽しめる絵本です。

『もりのえほん』



安野光雅／絵 福音館書店



緑豊かな森へ散歩に出かけましょう。小道に沿って歩きながら辺りを見回していると、次第に目が慣れ、写実的な木々の絵の中に巧みに隠された動物たちの姿が浮かび上がってきます。一度にすべて探せなくても大丈夫。何回でも楽しめます。

『やこうれっしゃ』



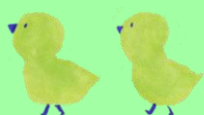
西村繁男／さく 福音館書店



夜行列車に乗り込み、目的地までお菓子を食べたり、トランプをしたりしてひと晩を過ごす人々の様子が、見開きいっぱい隅々まで描かれています。絵からは、乗客の会話が聞こえてきそうです。電車好きな子にもおすすめです。

ちょっと ながい おはなし

絵本の次に読んであげたい本です。毎日少しずつ読んであげることで、絵本から童話への橋渡しをスムーズにしてくれます。



『あおい目のこねこ』

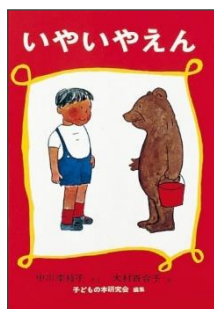


エゴン・マチーセン
／著
せたていじ
／訳
福音館書店



青い目の白い子ねこは、ねずみの国を探しに行きます。魚に笑われたり、黄色い目のねこに意地悪をされたりしますが、思いもよらない方法で、ねずみの国にやってきました。いつでも前向きな子ねこに、子どもたちは力をもらいます。

『いやいやえん』

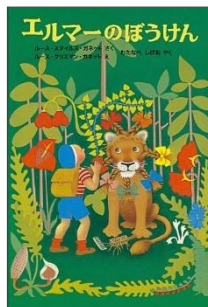


中川李枝子／さく
大村百合子／え
福音館書店



子どもたちが積み木で作った船でくじらとりに出かけたり、おかみが泥だらけのしげるをきれいにしてから食べようと奮闘したりと、ちゅーりっぷ保育園の元気な子どもたちが登場するお話が7つ入っています。さし絵も親しみやすい。

『エルマーのぼうけん』



ルース・スタイルス・ガネット／さく
ルース・クリスマン・ガネット／え
わたなべしげお
／やく
福音館書店



エルマーはどうぶつ島で囚われの身となっているりゅうの子どもを助けに行きます。エルマーが持って行ったのは、チューインガムや輪ゴムに長ぐつ…。子どもたちは知恵と勇気でいっぱい
のエルマーになりきって、冒険を楽しみます。※シリーズあり

『王さまのアイスクリーム』



フランス・
ステリット／ぶん
光吉夏弥／やく
土方重巳／え
大日本図書



気難し屋の王さまのために、知恵を出し合って暑い日に冷たいクリームを作っていたら、偶然アイスクリームができあがりました。コック長たちのがんばりと、偶然からの発明がおもしろい、アイスクリームのはじまりのお話です。

『おはようスーちゃん』

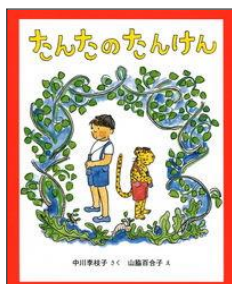


ジョーン・
G・ロビンソン
／作・絵
中川李枝子／訳
アリス館



スーちゃんは小さな女の子。お人形の誕生日に、ままごとのケーキをママの大切な銀のナイフで切ったり、八百屋さんの馬のトムに、買った人参やリンゴを全部あげてしまったり。スーちゃんの周りの人たちの温かい心に、子どもたちもほっとします。

『たんたのたんけん』



中川李枝子／さく
山脇百合子／え 学研プラス



たんたの誕生日の朝、地図がとびこんできました。たんたが探検に出かけると、ヒョウの子どもバビリもついてきます。牛のしっぽ川、らいおん岩などの場所の名前も楽しく、たんたとバビリのやりとりもほのぼのとしています。

※シリーズあり

『番ねずみのヤカちゃん』



リチャード・
ウィルバー
／さく
松岡享子／やく
大社玲子／え
福音館書店



ヤカちゃんは地声が大きい子ねずみ。静かにしないと、家の持ち主のドドさんに見つかってしまいます。でも、この大声がある日とても役に立ち、ドドさんたちに感謝され…。欠点が長所になる楽しさと、ヤカちゃんのおかあさんの愛情が、幸せな気持ちにさせてくれます。

袋井市立図書館のご案内

詳しくはこちらから



○袋井図書館

高尾町19-1 TEL.42-5325

- 開館時間
火・金・土・日曜日／9:30～17:30
水・木曜日／9:30～19:00

- 休館日
月曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31

○月見の里学遊館図書館分室

上山梨四丁目3-7 TEL.49-3402

- 開館時間
金～火曜日／9:00～17:30
水曜日／9:00～19:00

- 休館日
木曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31

○浅羽図書館

浅名976-1 TEL.23-6801

- 開館時間
火・水・木・土・日曜日／9:30～17:30
金曜日／9:30～19:00

- 休館日
月曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31



*休館日は図書館ホームページのカレンダーでご確認ください

おはなし会

図書館では、0歳から小学校3年生向けに絵本の読み聞かせを行っています。申込みは不要です。直接、図書館までお越しください。日程は「図書館ホームページ」でご確認ください。



詳しくはこちらから

お子さんも、図書館の利用者カードが作れます

このリストでご紹介した絵本の他にも、図書館には楽しい絵本がたくさんあります。お子さんのお名前のカードで本が借りられますので、初めてカードを作られる方は住所・氏名・生年月日の確認できるもの（マイナンバーカード、子ども医療費受給者証等）をお持ちのうえ、お近くの図書館へお越しください。



詳しくはこちらから

「ふくぶつくつちょう」で読書の思い出を記録しませんか？

預金通帳のように袋井市立図書館で借りている本の情報（本を借りた日、書名、著者名、本の金額）を図書館にある専用の機械で印刷、記録できます（高校生以下は無料）。お子さんと楽しんだ絵本の記録を残しませんか。



詳しくはこちらから